

# 地域における包括的な支援に向けた協働体制の構築と活用 ～実践学習機会としてのグループスーパービジョンを振り返って～

日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科（専門職大学院）

教授 木戸 宜子

## 1. はじめに

地域共生社会の実現に向けて、複雑化した生活課題、潜在的な福祉ニーズに対応するために、専門職や福祉組織、住民を含めた関係者らによる包括的な支援が求められている。その中で、福祉専門職がその実践力を十分に発揮できるよう、ソーシャルワークの専門性を高め、立場性や力動を踏まえた実践行動を実現するソーシャルワークスーパービジョンが必要である。

実践現場や教育機関においてスーパービジョンは、事例検討会やピアスーパービジョンなど様々な様式で実施されているが、そのねらいは主にスーパーバイザー個人の力量向上としている現状がある。包括的な支援を進めていくなれば、潜在化したニーズの把握、複雑化した状況にも対応し、支援活動を前進させる実践力が求められる。特にリーダー職、管理職などには、管理的側面からもスーパービジョン体制を意識し、支援のための会議や共同体制を活用し、状況の展開を図ることが求められる。スーパーバイザー・スーパーバイジー関係における実践の気づきや学びだけではなく、福祉組織や地域における協働体制を指向するスーパービジョンに注目する。

日本社会事業大学専門職大学院では、保健福祉現場においてマネジメントやスーパービジョンを担う、現任の実践者を対象に、経験学習を深める専門的職業人教育を行っている。2014年度からは、認定社会福祉士取得希望者を対象に個別スーパービジョンを実施してきた。2022年度は、グループスーパービジョン（以下、GSV）の形態で

実施した。本研究ではこの GSV のプロセスを振り返り、教育機関における GSV の今後の展開につなげたい。

## 2. 研究の視点

実施した GSV を振り返るにあたり、スーパービジョンについての課題意識を踏まえ、GSV の考え方を示す。

### （1）スーパービジョンのタイプ

スーパービジョンには、問題対応的、事前対応的、日常対応的の3つのタイプがある（木戸ほか、2020）。本 GSV 実施プログラムでは、問題の徴候把握や状況予測、早期対応に焦点をあてる、事前対応的スーパービジョンの適用を図る。

### （2）GSV の考え方

GSV は、スーパービジョンの諸責任を遂行するためにグループを活用するものである。GSV においてスーパーバイザーは、複数のスーパーバイジーの実践経験に対する管理的、教育的、支持的責任をもつ。スーパーバイジーは相互に経験を共有し、サポートし合い、学びの共同責任をもつ（Kadushin, 2009）。

利点としては、スーパーバイジーどうしが経験を共有する機会となり、「教えー学ぶ」経験が活用され、相互のサポートシステムになる。不利点としては、スーパーバイジーが共通して抱える普遍的なニーズに焦点をあてることになる。また個別スーパービジョンに比べると、グループのコミュニケーションが複雑になる、ということが挙げられる。

### 3. 研究方法

GSV 実施プログラムのプロセスを振り返り、包括的な支援への適用性について考察する。

GSV 実施プログラムは、以下のとおりである。

#### (1) 実施体制

- ・専門職大学院スーパービジョン規程に基づき、認定社会福祉士取得希望者を対象とする
- ・教員がスーパーバイザーとなる
- ・1 グループ4名のスーパーバイザーで構成し、2つのグループを形成する
- ・スーパーバイザーは現任の社会福祉実践リーダー職で、それぞれ異なる分野・機関に所属する

#### (2) プロセス・内容

- ・契約→GSV セッション8回（1回90分）→総括  
スーパーバイザーは、課題やテーマについて1回以上の報告が必須である  
（認定社会福祉士制度スーパービジョン実施マニュアルに基づく）
- ・実践場面経験の言語化、課題やジレンマの共有、リフレーミングなどを行う
- ・加工された事例や実践場面を扱い、守秘義務を課す

#### (3) ねらい

- ・スーパーバイザー自身が所属組織や実践フィー

ルドにおいて、管理者やリーダーとしてスーパービジョンを担うのに必要な視点を身に付ける

- ・実践状況を先に進めるために必要な、関係者の協働・相互作用への働きかけを考える

倫理的配慮について、本研究は日本社会福祉学会研究倫理指針、日本社会事業大学研究倫理規範に基づいて行い、GSV ならびに実践場面に係る個人や個人を特定する情報は扱わない。

### 4. 結果

GSV セッションの8回の内容は、以下のようになった。

- ・前半4回は、1人1回実践場面を報告

報告者が他のスーパーバイザーとともに実践場面を振り返り、実践状況を先に進めるためのGSV

- ・後半4回は、前半で報告された実践場面を中心に、実践者による会議を想定したロールプレイ  
地域ケア会議、組織内スーパーバイザー会議、部署内ケース会議などの場面を想定

ファシリテーター、スーパーバイザーとして実践場面を先に進めるためのGSV

セッション内容（例） 地域の支援会議場面のロールプレイ
参加者：病院 SW、学校担任、保健師、民生委員  「病院のソーシャルワーカーから、A さんの…について連絡がありました。 A さんの支援計画を検討します。」  (1) A さんやとりまく状況の強みをアセスメント（“ここがいいね”） (2) 参加者の役割に基づく、各支援計画の確認 “病院では主治医と退院後の療養方針について確認します。” “学校では・・・について、検討します。” “保健センターでは、・・・の支援をします” (3) 支援計画の効果予測

図1 セッション内容（例）

セッションは、支援計画、活動計画に焦点をあてることによって、実践状況を先に進める意識をもつねらいがあった。参加したスーパーバイザーからの意見としては、職場でのパターン化した思考から離れることができる、先の見通しを考える、客観的に捉えることができる、などといった、自身の視点に関するものが挙げられた。またセッションをとおして感じたこととしては、会議をとおして支援することを学んだ、場面における役割をとおした言動・相互作用が生じた、何が起こるのか想定しておくことができた、管理者の立場の孤独を感じた、など実践場面上の役割や相互作用に関するものが挙げられた。

実践上のジレンマの共有は、スーパーバイザーの抱えている荷を軽くすることになり、スーパーバイザーの実践領域は多様であっても実践課題に対して共感性の高い追体験の機会となった。

## 5. 考察

実施した GSV のプロセスを振り返り、GSV の意義、包括的な支援への適用性について考察する。

### (1) GSV の意義

GSV の効果性としては、各セッションにおいて報告された実践状況を先に進めるために、スー

パーバイザー相互のエンパワメントや支持機能が発揮され、スーパーバイザーが学びあう教育的機能があったと言える。スーパービジョンの管理的機能については、教育機関としてスーパーバイザーの実践の質の評価、担保を果たしたと言える。

またセッションが進むにつれ、スーパーバイザー各自の独自性の理解・尊重し、相互作用が深化し、現任の実践者の実践学習機会として有用であった。異なる機関、分野の実践者がスーパーバイザーとなって実施したこの GSV での学びは、終了後にスーパーバイザーがそれぞれ自身の所属機関や実践フィールドにおいて、応用していくことが課題となる。特にスーパービジョンの管理的機能や、事前対応的スーパービジョンの活用により、会議進行やプランニング、予測的対応などの前方視的な実践につなぐ必要性がある。

### (2) 包括的な支援への GSV の適用性

地域における包括的な支援に向けては、潜在的なニーズの把握・対応のために、多機関、多領域での協働が求められる。特にマネジメント、スーパービジョンを担う実践者には、一つの実践場面をもとに、会議体を構成し、協働体制を構築、活用する力量が求められる。ジェネラリスト視点で言えば、組織や地域を含む、メゾレベルでの働き

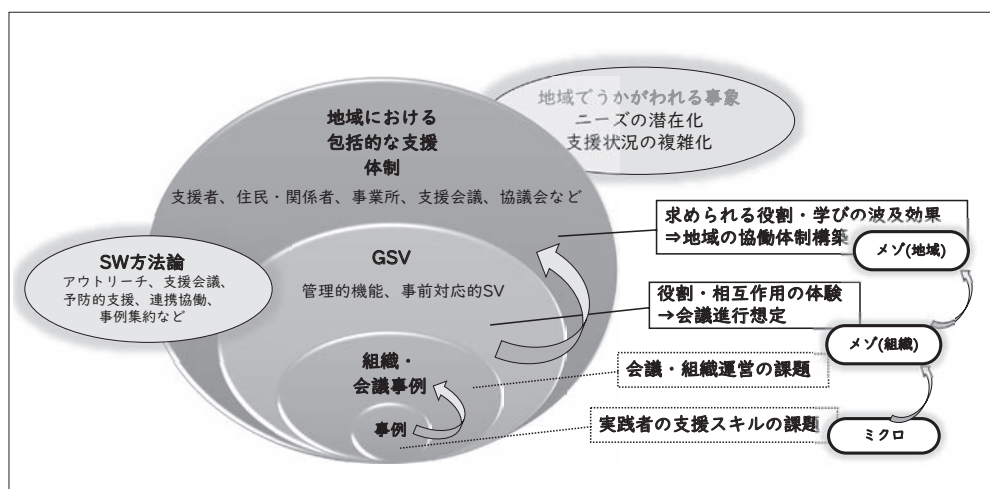


図2 地域における包括的な支援体制の構築に向けて

かけが必要になる。教育機関における実践者教育においても、メゾレベルの協働や相互作用の促進につながるスーパービジョン教育が必要であると考え。GSV では、実践者個人の支援スキルの向上だけでなく、グループの相互作用体験をとおして、包括的な支援においてリーダー職に求められる、会議や支援体制を動かすスキルに焦点化する意義がある。

## 6. 結論

グループの相互作用を活用し、前方視的な実践

につなぐことを意図した GSV の、包括的な支援への適用性は高い。スーパービジョンの学びをとおして、組織や地域（メゾレベル）を対象とした実践への波及効果を期待する。

包括的な支援におけるソーシャルワーク方法論としては、アウトリーチ、支援会議、予防的支援、連携協働、事例集約などが重要になってくる（原田，2022）。今後は、これらを焦点化した GSV のセッションの企画を検討し、実施していくことが課題である。

---

### <文献>

- ・ Kadushin, A. Harkness, D. (2009) Supervision in Social Work 5th ed. (= 2016, 福山和女監修『スーパービジョン イン ソーシャルワーク (第5版)』中央法規).
- ・ 木戸宜子・有馬知良・宮川恭介「福祉組織におけるスーパービジョンのあり方」(日本社会事業大学『社会事業研究』59, 2020)
- ・ 原田正樹「包括的支援体制の構築に向けて－協議過程での留意点」(全社協『月間福祉』2022, 7月)